

はじめに

20世紀、人類は科学技術においてかつてない変革を成し遂げました。しかし科学の発展に伴う様々な恩恵を受けると同時に、環境ホルモンや地球温暖化など人類のみならず全ての生物が影響を受けるような問題も同時に発生し、それらが新しい世紀に負の遺産として積み残されることになりました。

さらに科学の進歩はとどまることなく、遺伝子を操作することさえ可能となってきましたが、この技術の応用はすばらしい可能性を秘めていると同時に、様々な危険性をも有していると考えなければなりません。

このような状況にあつて当研究所では、12年10月には従来の環境科学、衛生化学、微生物の三部門に加え、廃棄物試験研究センターを統合し、より幅広い分野を擁する体制となりました。さらに、13年4月からダイオキシンを含む環境ホルモンや遺伝子組み替え食品、感染症や健康危機管理への対応など新しい検査研究の需要に応じていくために、自主性、自立性を発揮し、異なる部門間での柔軟な連携が可能となるスタッフ制を導入して新しい世紀を迎えました。

当研究所で行う調査研究、情報の発信が、健康で快適な生活環境作りに役立つようつとめてまいりたいと考えております。

この所報は、平成12年度の事業概要と調査研究の成果を関係機関はもとより福岡市民をはじめ全国の方々に情報として提供し、広く活用していただくことを目的として取りまとめたものです。ご高覧いただき忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

平成13年7月

福岡市保健環境研究所

所長 大田 耿三